WOODONE

株式会社 ウッドワン
〒738-0023
広島県廿日市市下平良1-12-1
[商品相談窓口]
フリーダイヤル 0120-813-331
[受付時間]平日8:30～17:00
[休日]土日･祝日･GW･年末年始･夏期休暇

GKF

施工業者様用

〈施工説明書〉

天井ジャストアウトセット引戸専用枠材（両側ソフトクローズ）

上吊り　ピノアース

このたびはウッドワンの商品をご採用いただき、誠にありがとうございます。
施工前にこの施工説明書をよくお読みいただき、安全に正しく施工されるようお願い致します。
製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害･財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」をよくお読みください。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りいただき、内容をよく理解して正しくお使いください。

安全上のご注意　安全に正しくお使いいただくために必ずお守りください

⚠ 注意　施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

- ·屋内専用。
  屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。
- ·上吊レールの固定はインパクトドライバーを使用しない。
  上吊レールの固定に際し、インパクトドライバーを使用すると下地材に割れが発生したり、ビスが空回りしてレールや扉が落下する危険があります。
- ·ビスはビス穴に取り付ける。
  ビス穴加工以外の位置にビスを取り付けると、枠材に割れが発生し、扉の脱落の原因となり危険です。
- ·吊車･レール等は消耗製部品。
  引戸用吊車およびレール間に、異物が付着した状態での開閉は避けてください。長期間のご使用にあたり、開閉がしづらくなった場合には、交換（有償）をお薦めします。

必ずおこなう

- ·開梱後は換気を行なう。
  本製品はホルムアルデヒド･VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築･リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド･VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。
- ·ほこりやゴミが付着しないようにする。
  レール、吊車にほこりやゴミなどが付着すると、引き込み速度の低下や閉じきらないことがありますので吊車にほこりやゴミが付着しないよう配慮ください。
- ·レールの水平を確認する。
  レールの傾きにより、引き込み速度の低下や閉じきらないことがありますので、レールが水平になるよう施行ください。留意点:不陸は1mあたり3mm以下でお願いします。
- ·同梱の金具を使用する。
  本製品の取り付け、施工には必ず同梱の金具類を使用してください。

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯･ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

開梱

■梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

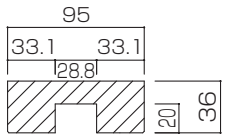
枠本体セット			
部材名	鴨居（クロス下地）	出隅材	鴨居レール
入数	1本	2本	1本
備考（部材品番）	—	—	—

金具セット（枠本体セットに梱包）標準:両側ソフトクローズ								
部材名 / セット品番	振れ止め金具（床付用）	上レール取り付けビス（皿ビス）	ソフトクローザーロング（吊車セット）	トリガーセットロング用（ビス2本セット）	トリガー取り付け治具	エンドキャップ（ビス1本セット）	床取付ストッパー（ビス3本セット）
入数 ZYJGL5	1個	6本	2本	2個	1個	2個	2セット
備考（部材品番）	ZY3334	ZYTJ01	—	—	ZYTG11	ZYTG11	ZYTG11

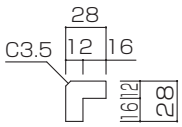
納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図



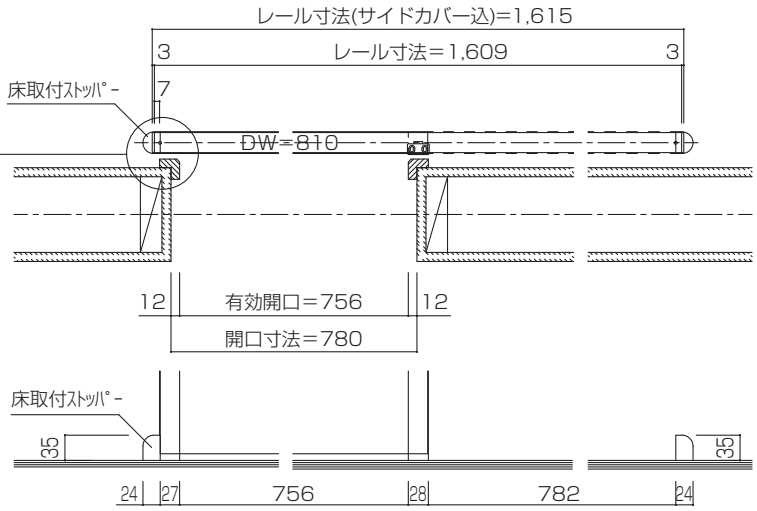
鴨居(クロス巻込枠)



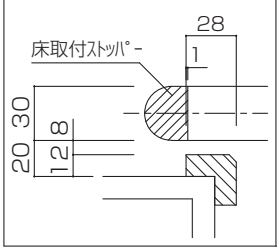
出隅材

■枠製品寸法と納まり図

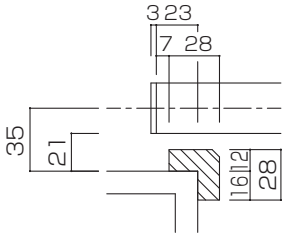
(単位:mm)



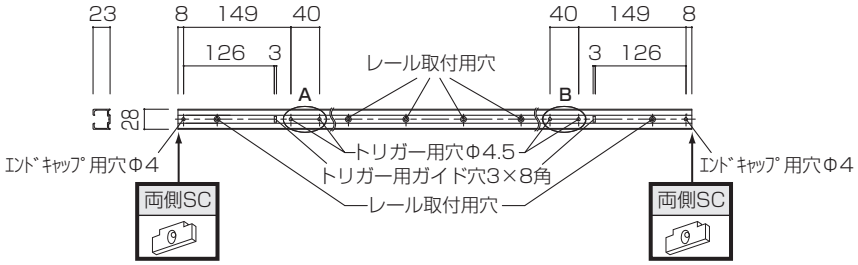
■床取付ｽﾄｯﾊﾟｰ取付位置



■上部ﾚｰﾙ取付位置



■レール詳細図



■トリガー取り付け位置

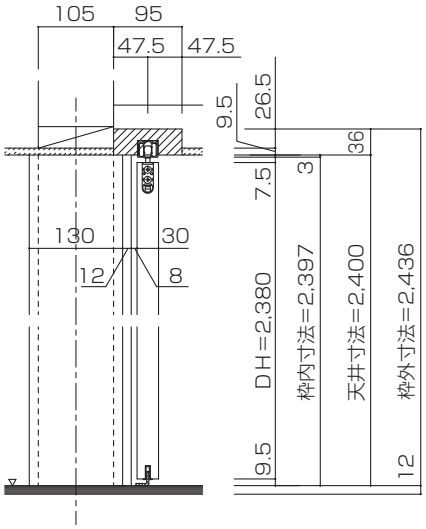
両側ソフトクローズ仕様	A·B

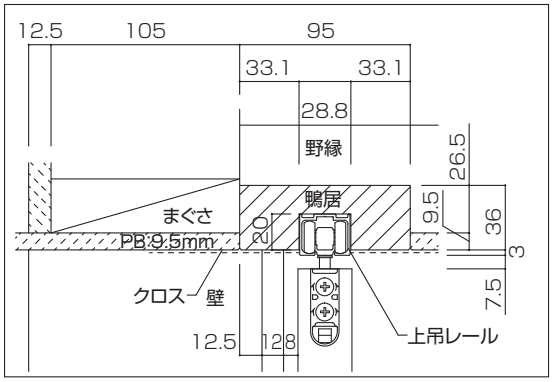
POINT

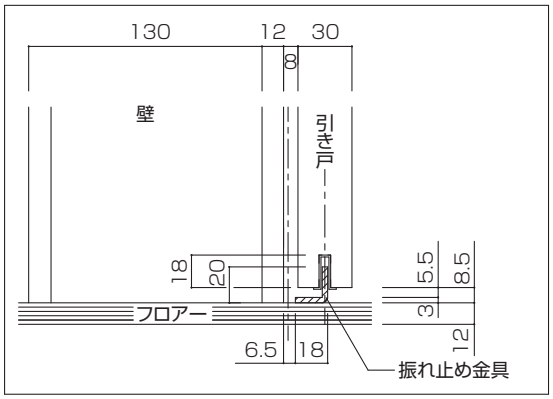
トリガーの取り付け向きに注意してください。

縦断面図

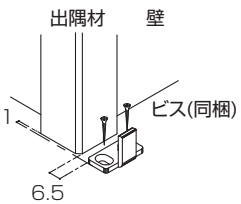
(単位:mm)





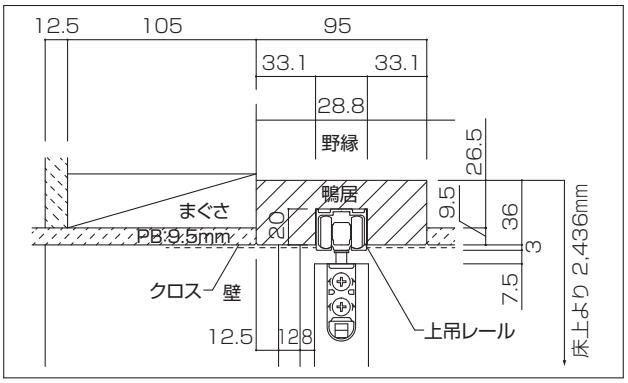


振れ止め金具(床付け用)の取り付け位置



施工手順

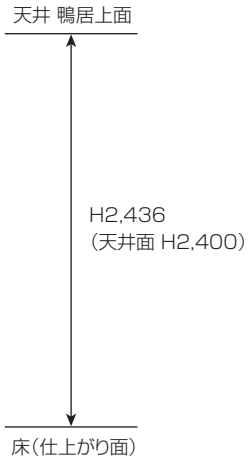
❶天井下地鴨居の位置確認

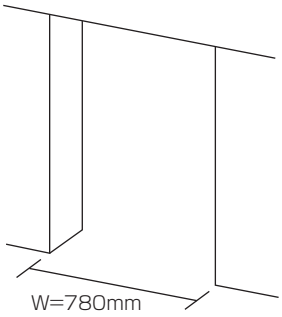


⚠注意
天井下地の補強が不十分だと、扉・上吊レールが脱落・転倒するおそれがありますので必ず十分な補強をおこなってください。

この引戸枠は、野縁等の下地に鴨居を取り付けます。
下地寸法にご注意下さい。

❷開口寸法の確認



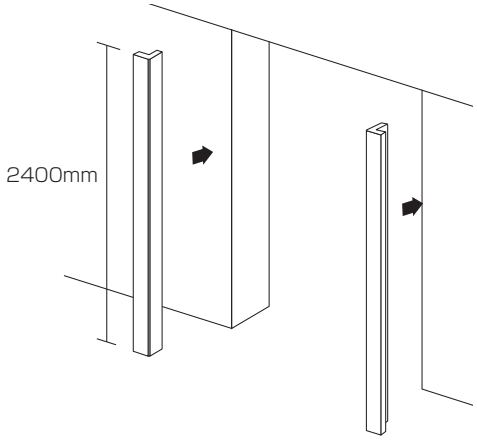


壁を仕上げた状態から開口寸法を確認してください。

⚠注意
扉の高さがH=2360mmになります。天井高がH=2400mmになるように仕上げてください。

⚠注意
開口寸法(壁が仕上がった状態)がW=780mmになります。
レール取り付けには2モジュール(W=1820mm)必要になります。

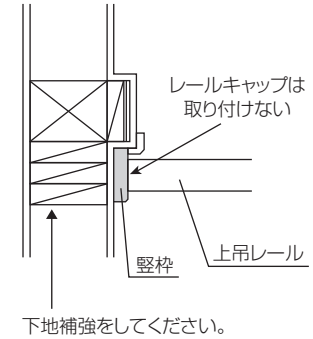
❸出隅材の取り付け



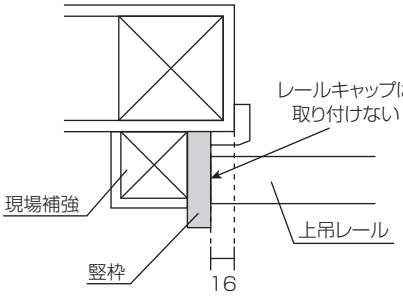
出隅材を開口部のコーナーへ取り付けます。
※出隅材を取り付けるのは、扉が通る側のコーナー部分です。

間仕切り用竪枠を取り付ける場合

竪枠側が入隅の場合



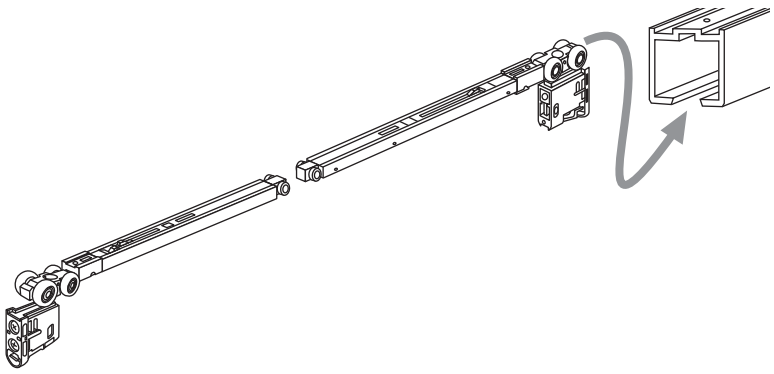
竪枠側に壁がない場合



間仕切り用竪枠を使用する場合は納まり図を参考に現場補強を行ってください。

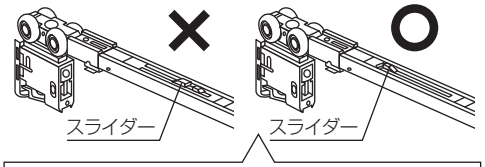
4 吊車の挿入

上吊レールに吊車を挿入してください。吊車は図のように向かい合わせてレールに入れてください。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないので注意してください。



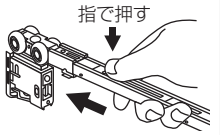
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。

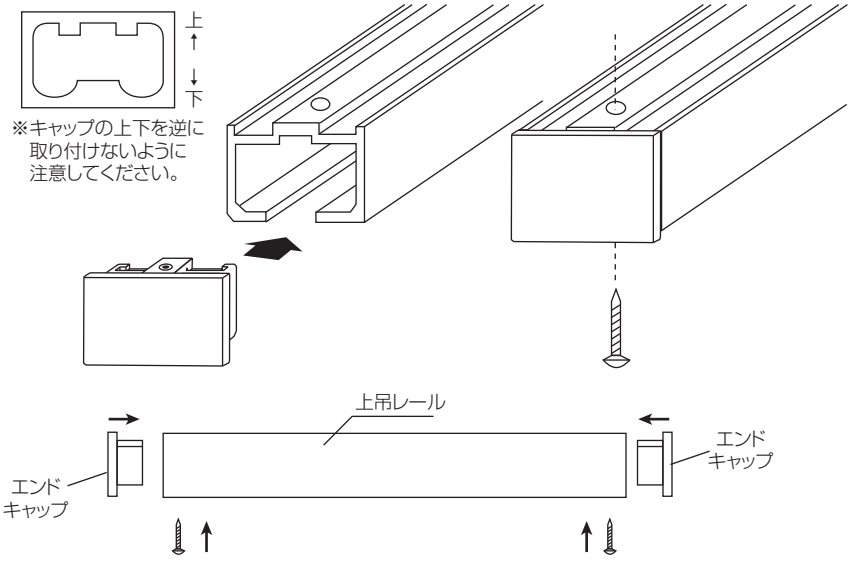


スライダーが正しい位置にない場合

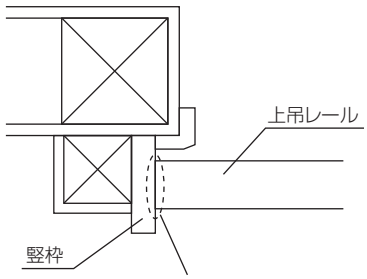
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。



5 エンドキャップの取り付け



⚠ 注意



竪枠とレールが接する場合はエンドキャップを取り付けないでください。

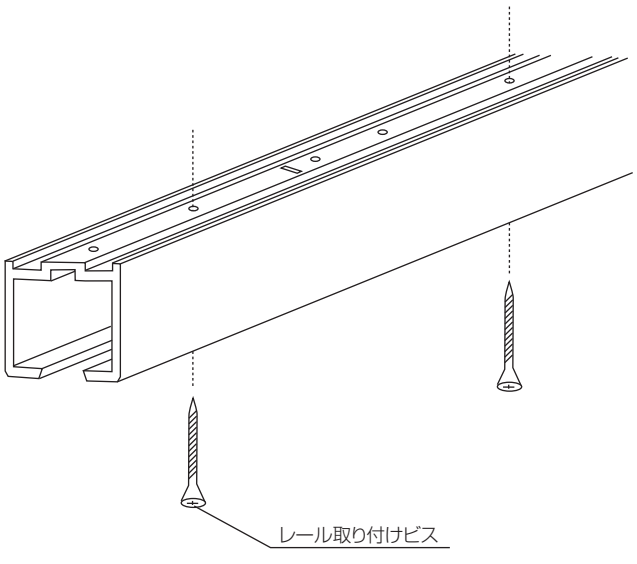
上吊レールの両サイドにエンドキャップを取り付け、同梱のビスで固定してください。

6 上吊レールの固定

竪枠取り付け後、天井のクロスを仕上げた後に、上吊レールを天井に取り付けます。

10ページの「上吊レールビス穴詳細図」を参照し、φ5.5レール固定用のビス穴に同梱の取り付けビスで6ヵ所確実に固定させてください。

※ビス穴を取り付ける前に下穴をあけておいてください。



※必ず同梱のビスを使用してください。

⚠ 注意

- レール取り付けビスを打ち込む場所にはビスがきちんと効くように、下地の補強を確実におこなっておいてください。
- 吊車を挿入した状態でレールをかたむけると、吊車が落下してしまうおそれがありますので、レールを取り付ける際は平行にして取り付けてください。
- 木くずやゴミなどが付着しないように注意してください。

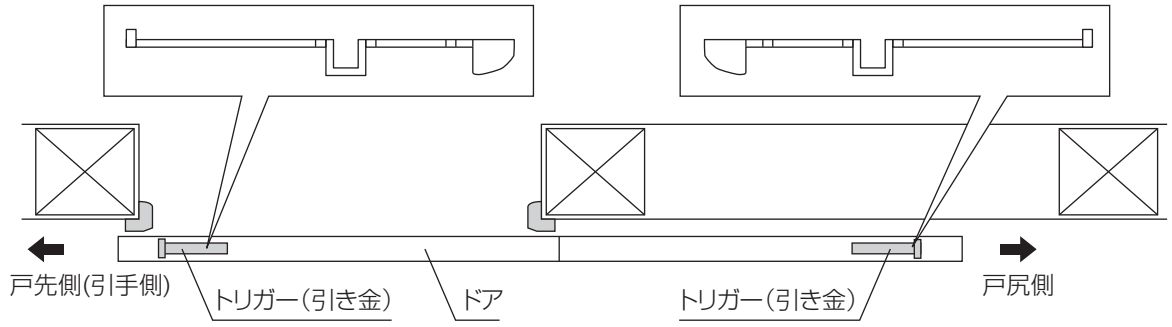
7トリガーの取り付け

10ページの「上吊レールビス穴詳細図」を参考に、φ4.5トリガー用のビス穴にトリガーを同梱のビスで取り付けます。
※ビスを取り付ける前に取り付ける位置に下穴をあけておいてください。

トリガー取り付け位置と取り付け方向

■トリガー(引き金)の取り付け向きをご確認ください。
※必ずレールの長穴加工部分にトリガーの折り曲げ部分が差し込まれるように合わせ、
尚かつトリガー取り付け穴2か所をレールの取り付け穴位置に必ず合わせて取り付けてください。

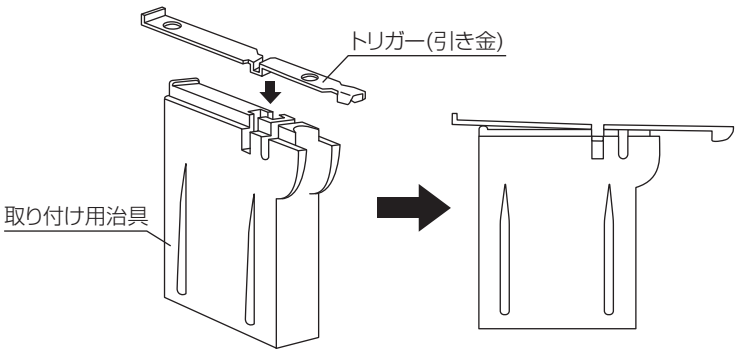
※右引きの場合



上吊りレールのトリガー取り付け用ビス下穴は、25mmの間隔でレール両端付近にあります。

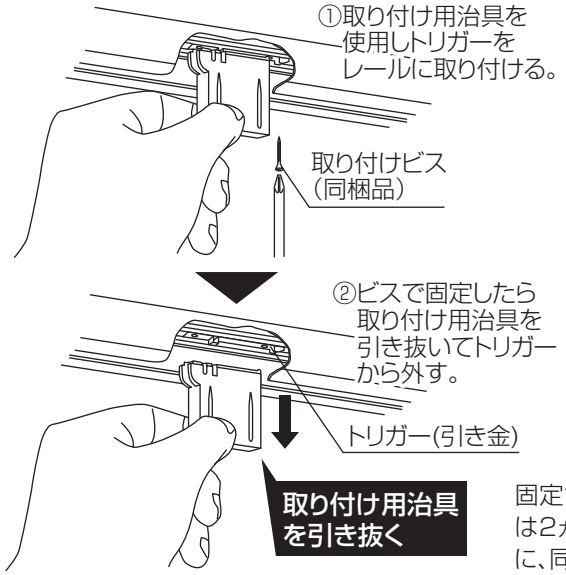
③取り付け用治具とトリガーセットの確認

本品は出荷時、トリガーと取り付け用治具がセットされている状態ですが、外れている場合は図のようにトリガーを取り付け用治具へセットしてください。

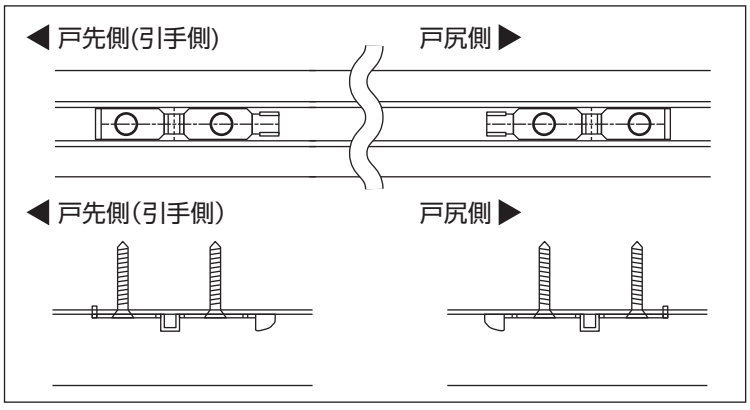


④トリガーの取り付け

トリガーをセットした取り付け用治具を上吊レール内側のトリガー用ビス穴へ押し当てて同梱の専用ビスを治具ビス穴に通し、トリガーを固定します。



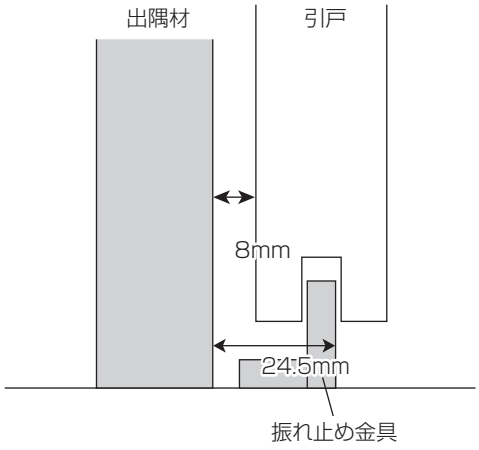
トリガー・上吊レール納まり図　　(右引きの場合)

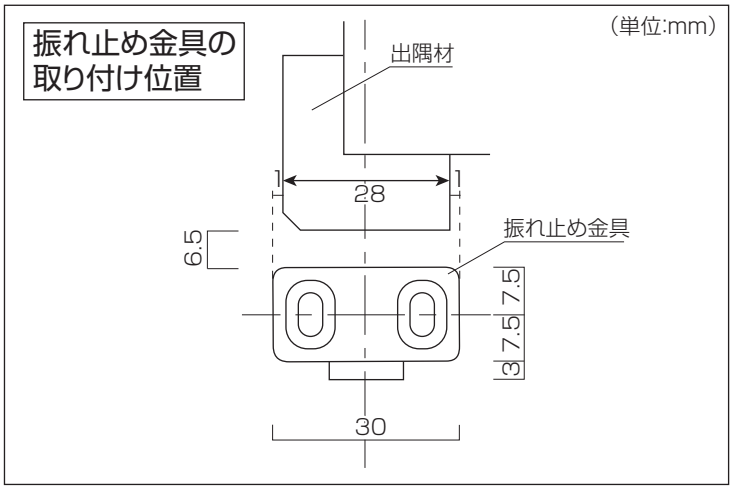


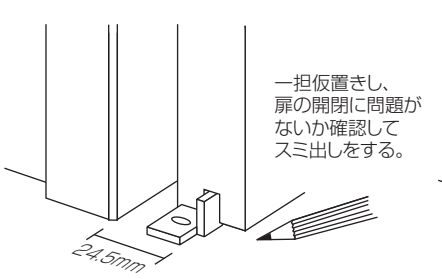
固定されたら、取り付け治具を下に引っ張って抜いてください。トリガーの固定は2ヵ所となっています。取り付け用治具を引き抜いた後、もう1ヵ所のビス穴に、同梱の取り付けビスで固定してください。

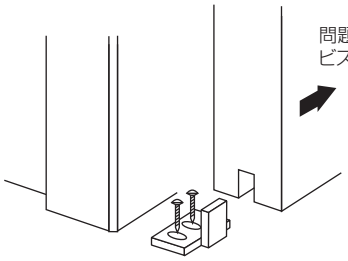
⚠注意
トリガーの取り付けは、手回しドライバーにて行ってください。トリガーがしっかりと取り付けされていない場合、ソフトクローズの動作不良の原因となります。

8 振れ止め金具の取り付け





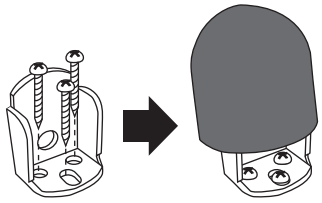




取り付け寸法を参考に振れ止め金具の取り付け位置を決めてください。
本固定する前に一担仮置きし、
吊った扉が問題なく作動することを
確認してから、同梱の取り付けビスで
本固定させてください。

■床取り付けストッパーの取り付けについて

戸先側と戸尻側の2カ所の引き戸下に床取り付け
ストッパーを取り付けます。
取り付ける場所については、納まり図をご確認ください。



※有効開口標準より狭い場合や
引き残しが必要な場合は、
引き残しストッパーの位置に合わせて
取り付ける位置を調節してください。

施工終了後

■養　生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。粘着テープなどは直接商品に貼り付けないようにしてください。

■お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を固くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。